体験して学ぼう！

金融・経済・起業

金融（きんゆう）クエスト

Financial Quest

5

将来のために資金を運用しよう！

資産形成と金融商品の特徴（とくちょう）を学ぼう

教授用手引書

●概要

資産形成を体験する活動を通じて、金融商品の特徴について学びます。

●ねらい（目的）

・資産形成の必要性を理解すること。
・金融商品の特徴を理解し、目的に合わせてその商品を選択できるようになること。
・リスクとリターンの関係と分散投資について理解すること。

J-FLEC

使用教材

生徒用テキスト	動画	社会情勢カード（6種類）・決算カード（1種類）
※紙媒体の場合1人1冊 ※WEBサイトにPDF有	※WEBにて視聴可能	（WEBワーク） ・診断テストをしてみよう ・資産形成を体験

生徒用WEBサイト

https://www.j-flec.go.jp/quest/student/05ss/

動画内容

動画① はじめに（2分）

・人生のさまざまなことには資金が必要となる。
・将来に備えて資金を作っていくことを“資産形成”という。

動画② 金融商品（預貯金、債券、株式）の特徴をみてみよう！（4分）

・預貯金・債券・株式の特徴を、安全性・収益性・流動性の面から説明する。

動画③ 20年後の世界に移動 資産形成を体験！（2分）

・ワーク「20年後の世界に移動 資産形成を体験！」の進め方を説明する。

動画④ ワークの振り返り、まとめ（6分）

・ワークの結果、各金融商品の価値がどのように変動したかについて説明する。
・金融商品のリスクとリターン、分散投資、投資信託について説明する。
・資産形成は長期・積立・分散の視点で行うことが大切である。

学習の展開

	授業の流れ	活動	指導のポイント
導入 2分	ポイント説明 動画①を視聴（1分） 生徒用テキスト：P.1	・動画の視聴 動画①	・人生のさまざまな出来事（ライフイベント）は一人ひとり違っているため、各自で考えさせ、どれぐらいお金が必要になるのか調べさせてもよい（ライフイベント例）一人暮らし、起業、結婚、出産、子供の学費、旅行、住宅やクルマを購入、老後の生活費（老人ホーム）など・・・
展開① 3分	個人ワーク 診断テストを行う 生徒用テキスト：P.1	・自分の性格に合う金融商品を見てみる。 <WEBワーク> 診断テストをしてみよう 質問に答えていくと画面上で結果が確認できる。	・生徒の興味関心を惹くための診断テストであり、このあとの資産形成において、診断結果で出た金融商品を推奨しているわけではない

	授業の流れ	活動	指導のポイント
展開② 15分	ワーク①説明 動画②を視聴（4分） 生徒用テキスト：P.2,3	・動画の視聴 動画②	
	個人ワーク 生徒用テキスト：P.3 ※ワークシート❶を使用	・動画を見ながら（動画を止めながら）、あるいはテキストを見ながらワークシート❶にまとめ、金融商品の特徴を理解させる。	・3つの基準（安全性・収益性・流動性）を全て兼ね備えた金融商品はないことを伝える ・たとえ債券であっても、発行する会社などによってはリスクの高いものもある ・金融商品には、預貯金、債券、株式以外にもさまざまな種類があり、特徴も異なるため、購入時には商品をよく理解する必要があることを伝える
展開③ 20分	ワーク②説明 動画③を視聴（1分） 生徒用テキスト：P.4,5	・動画の視聴 動画③	
	グループワーク 生徒用テキスト：P.5 ※ワークシート❷を使用	・グループ（4人程度）に20万円の余裕資金があると想定し、話し合って預貯金、日本の国債、2種類の株式（株式Aと株式B）の4つの金融商品の中から2つ選択する。 a）先生が、社会情勢カードをめくりニュースを発表（ニュース1から順に1枚ずつカードをめくる）。 b）ニュースによって金融商品の価値が変動することを確認し、ワークシート❷にすべての金融商品の増減額を記入する。 ・ニュースは全部で6つ。上記a),b)を繰り返す。 ・合計金額を計算する。 ・合計金額の計算を終えたら「決算カード」で配当金・利子を確認して記載する。 ・最後に、自分たちが選んだ金融商品の合計＋配当金・利子＝総合計を記入する。 ・自分たちが選んだ商品について気付いたことを記入する。 <WEBワーク> 資産形成を体験 画面上でニュースの表示・結果の確認を行う。また、各金融商品の値動きの結果も自動で計算されワークシート❷が表示される。	・時間があれば、各グループに選んだ金融商品とその理由を発表させても良い ・ワークシート❷には、すべての金融商品の増減を記入させ、後で、自分たちが選んだ以外の金融商品も含め、どのように価値が変動したのかを確認させる ・資金が増えた減ったで一喜一憂するのではなく、価値の変動から金融商品の特徴を捉えることが重要であることに気付かせる 〈 WEBワークの画面 〉

ワークシート❶の解答

P3　（上から順に）
1.元本保証、安全性と流動性は（高い）
2.決められた金額 安全性は預貯金より少し（低い）、収益性は預貯金より少し（高い）
3.配当金、変動、安全性は預貯金より（低い）、債券より（低い）、収益性は預貯金より（高い）、債券より（高い）

	授業の流れ	活動	指導のポイント
まとめ 10分	まとめ 動画④を視聴（6分） 生徒用テキスト：P.6,7	・動画の視聴 動画④ ・ワークの振り返りの部分まで（2:49頃）で一度止めて、ワークの結果を振り返える。 ・ワークの振り返りが終わったら、（2:50頃）から視聴し、P.7以降のまとめを行う。	・債券の価格は市場の動きによって変化するが、満期まで待てば決められた金額（額面）が戻ってくることに気付かせる（債券のウ合計は99,900円が100,000円となる） ・ローリスク・ハイリターンの金融商品はない。そのような金融商品は詐欺かもしれないと疑うことも重要であることを伝える ・分散投資の仕組みを取り入れた代表的な金融商品が投資信託であることを伝える ・資産形成は長期・積立・分散の視点で行うことが大切であることに気付かせる
	個人ワーク 生徒用テキスト：P.8	・ワークシート❸を記入	・リスクとリターンについての知識の定着、目的に合った金融商品の選択活用ができるかを確認する

ワークシートの解答（参考例）

P8　（右上から順に）株式、投資信託、債券、預貯金
（来年に使う予定が決まっている資金は?）預貯金
（理由）すぐに使う予定があるので安全性を重視した預貯金で元本が減らない運用をしたいため。
（自分の老後（30年以上先）のための資金は?）株式
（理由）使うのはまだまだ先でそれまで長期で運用ができるため、収益性を重視した商品にしたいため。

ワークシート❶の増減額

（単位：円）

資産（2つの金融商品に投資すること）				
金融商品	株式A （衣料品会社） 前期の配当金 4000円	株式B （ロボット製造会社） 前期の配当金 500円	債券 （日本の国債） 毎年の利子1%	預貯金 毎年の利子0.001%
ア 当初資産	100,000	100,000	100,000	100,000
イ ニュース1	+5,000	+1,000	-100	0
イ ニュース2	-4,000	-2,000	+100	0
イ ニュース3	-1,500	-3,000	0	0
イ ニュース4	0	+12,000	0	0
イ ニュース5	0	-11,000	0	0
イ ニュース6	+5,000	+1,500	-100	0
ウ 合計（ア+イ）	104,500	98,500	100,000 （99,900）	100,000
エ 配当金・利子	+4,000	+2,000	+1,000	+1
オ 総合計（ウ+エ）	108,500	100,500	101,000	100,001

●ニュース解説

※解説はあくまで参考です。実際の金融商品の価値は、必ずしもこれと同じように変化するわけではありません。

- **ニュース1**　株式Aも株式Bも売上が伸びて、利益が多く出そうです。配当金の増額などが期待でき、両社ともに株価が上がりしました。一方債券は、あらかじめ決められた金額や利子しかもらえず、好景気で物価や世の中の金利が上がるとその債券の魅力が薄れるとの見通しから価格が下がりました。
- **ニュース2**　株式Aも株式Bも売上が伸びなくなり、利益が少なくなりそうです。配当金の減額などが見込まれ、両社ともに株価が下がりました。一方債券は、決められた金額と利子を受け取ることができ、不景気で物価や金利が下がるとその債券の魅力が高まるとの見通しから価格が上がりました。
- **ニュース3**　原油価格の値上りにより、株式A・株式Bは材料費（合成繊維）や燃料費（工場稼働、製品運搬）などが増えて利益が出にくくなることが見込まれ、株価が下がりました。一方、現時点では景気や金利への影響はそれほどないだろうと世の中は判断したようで、債券の価格に動きはありませんでした。
- **ニュース4**　株式Bの売上が伸びて、利益が多く出そうです。配当金の増額などが期待でき、株価が上がりしました。
- **ニュース5**　株式Bの売上や利益の増加はあまり見込めなくなりました。配当金の増額は期待できなくなり、社会的な信用も落ちてしまうことなどから、株価は下がりました。
- **ニュース6**　ニュース1と同じ

●解説参考

- **【コラム】いざという時の備え～目先半年分の貯蓄～**

  将来を見据え、資金形成を行うことも重要ですが、震災や自然災害、感染症拡大など突発的な社会情勢の影響から「目先半年分の貯蓄」の重要性も再認識されています。いざという時に備えて、しっかり資産をつくっていきたいですね。

- **【コラム】投資はギャンブルではない**

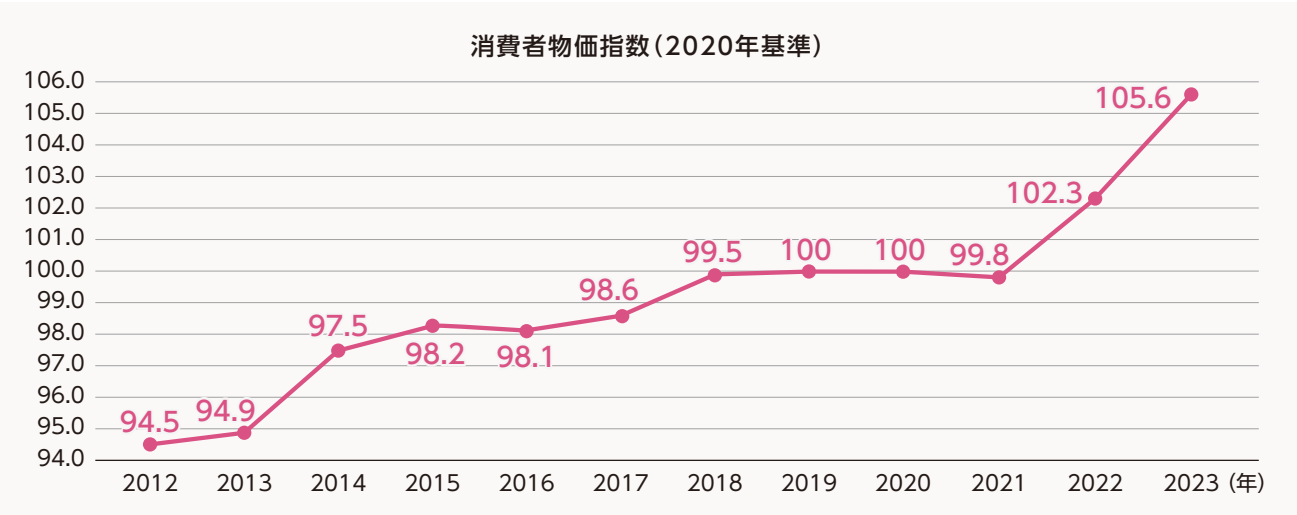
  一部の人は、投資は「お金が増えるか、損をするかわからない。」という点で、ギャンブルと比較されることもありますが、投資とギャンブルは本質的に目的や仕組みが異なります。
  「投資」とは、投資対象の価値自体が増えることもあり、全員が恩恵を受けることもあるものであり、
  「ギャンブル」とは、投資対象の価値は変わらず、誰かが勝てば誰かが必ず負けるものです（ゼロサムゲーム）。

- **【コラム】契約内容の確認の重要性（生徒用テキストP.2関連）**

  金融商品に限らず、商品を購入する際は契約内容を確認・理解し、自身の判断で購入することが基本です。
  特に債券や投資信託は、商品によって特徴が大きく異なるため、購入時には契約内容を確認することが重要です。

- **【コラム】物価は上昇している!?（生徒用テキストP.2関連）**

  2013年より、物価（モノやサービスの価値）が上昇する傾向にあります。
  物価が上昇すると、当然、生活に必要なお金も増加していきます。



出典：総務省「消費者物価指数（総合）年平均」より作成

・【コラム】公的年金も株式など金融商品で運用

公的年金の保険料のうち、年金の給付に充当した残りの資金は、国が将来の給付に備え、株式や債券など複数の資産を組み合わせて運用しています。また、公的年金の積立金は、ESG（環境、社会、ガバナンス）の要素なども考慮して運用されています。

・【コラム】長期・積立・分散

資産運用には、「長期・積立・分散」の視点が重要だと言われています。

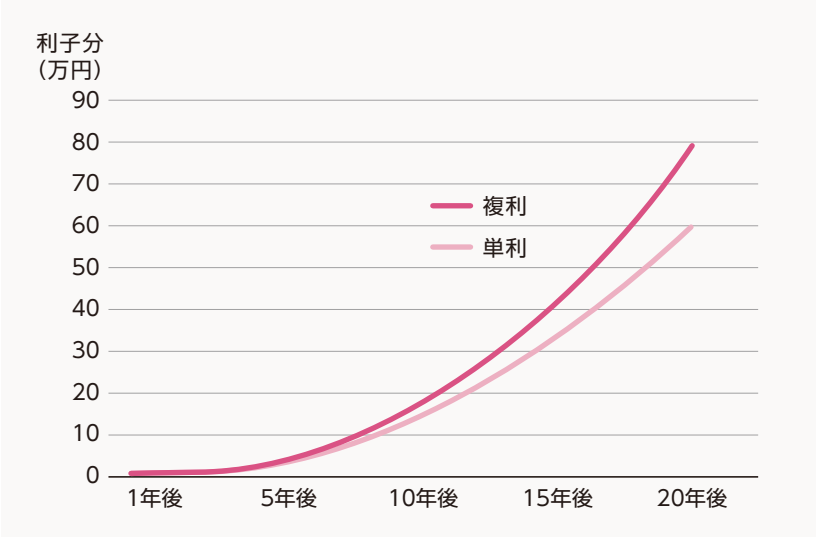
①長期

「長期」の視点のポイントに「複利」を活用する考え方があります。金融商品には、単利と複利がある商品があります。

単利とは「預け入れた元本に対してのみ、利子を計算する方法」、
複利とは「発生した利子を元本に足し、新しい元本として利子を計算する方法」です。

同じ利率で預けた場合、期間が長くなるほど、複利の方が有利になります。

毎月5万円積立の場合の利子のふえ方
（金利5%、1年複利、利子は税引き前）

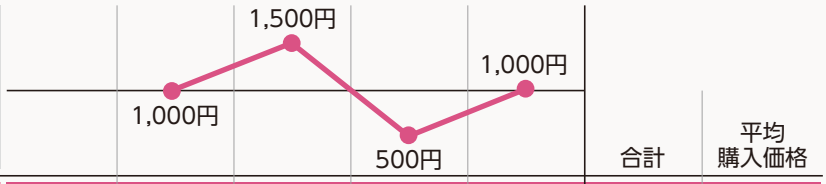


②積立

「積立」の視点を使った方法の例として定額購入法（ドル・コスト平均法）があります。

●定額購入法（ドル・コスト平均法）

値上がり・値下がりする株式や投資信託の購入単価を下げるために定期的に一定金額ずつ買い付ける方法です。購入時期を分散することで価格変動リスクを低減させる効果が期待できます。定期的に一定額を投資すると、株価が安いときは多く、株価が高いときは少ない株数を購入することになり、結果として1株当たりの購入価格は平均化されます。



定額購入法の場合					合計	平均購入価格
購入株数	10株	6.7株	20株	10株	46.7株	1株あたり
購入額	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	40,000円	856.5円

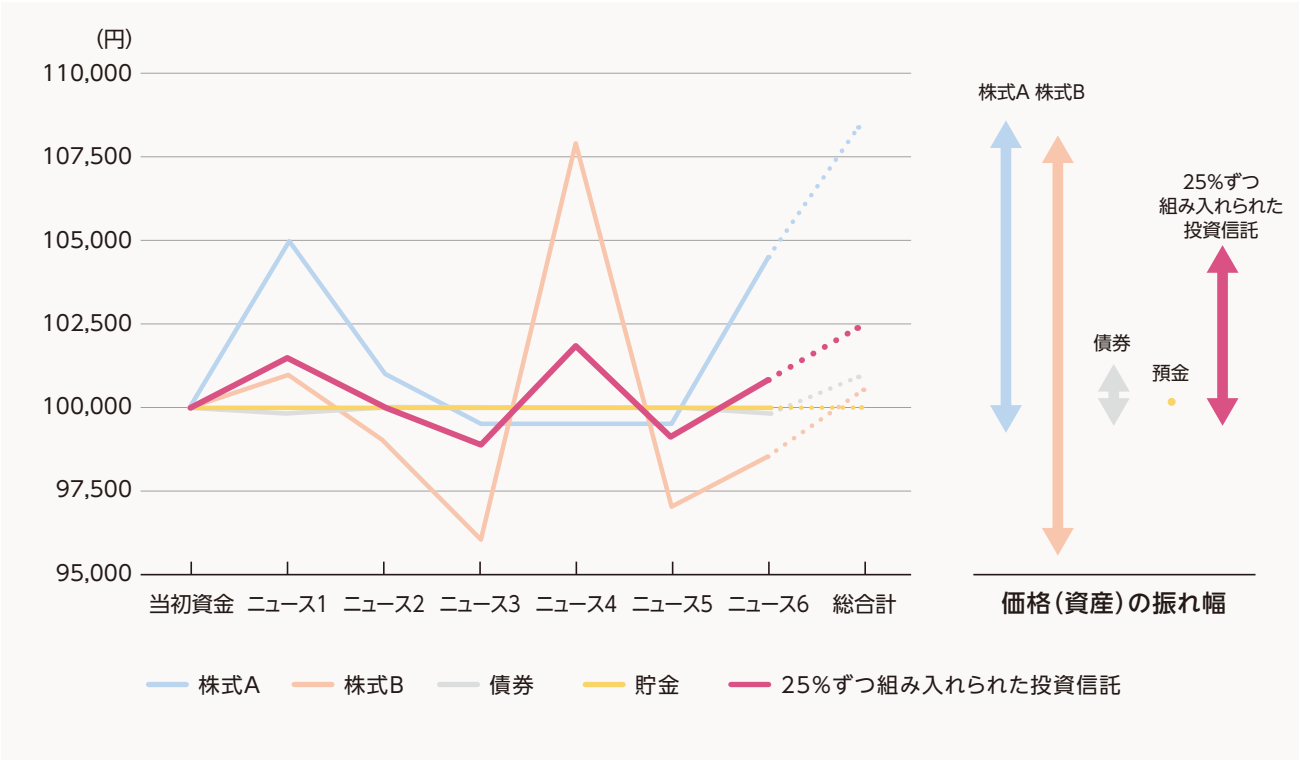
定額購入法
（ドル・コスト平均法）
毎回、決められた
「金額」ずつ購入する。

例：価格にかかわらず
1万円分ずつ購入

ただし、定額購入法（ドル・コスト平均法）によって投資収益が確実になるものではなく、場合によっては（例えば、購入する金融商品の価格が下落し続けるなど）、損失を被る場合があります。

③分散

「分散」投資ができる商品は「投資信託」です。(生徒用テキストP.7参照)
例えば、ワーク「20年後の世界に移動　資産形成を体験!」の4つの金融商品を25%ずつ組み入れられた投資信託がニュースによってどう価格が変動していくかをみていくと下図赤線のとおりとなり、投資信託が価格の振れ幅(リスク)を軽減させる効果があることが分かります。



- **【コラム】投資信託は身近な金融商品(生徒用テキストP.7関連)**

将来、就職した先の企業が確定拠出年金を導入していた場合、好むと好まざるとにかかわらず、将来の年金を自分自身の判断で運用しなければならなくなります。このとき主力となる金融商品は投資信託です。
一口に投資信託といっても、日本国内の株式を中心に運用するものや様々な国の株式や債券を組み合わせて運用するものなどが様々な投資信託があり、リスクも異なります。自分自身にあった投資信託を選択するためにも、組み入れている金融商品も含めてその特徴をしっかり理解しておきたいものです。

- **【コラム】投資はSDGsに貢献(生徒用テキストP.9関連)**

生徒用テキストP.9には金融商品を買うことは社会貢献の一助となっていると紹介されています。
実は、金融商品の中には、SDGsの達成に向けて取組む団体等に資金を供給し、その活動を後押しするものもあります。

●SDGs(エスディージーズ)

国連は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択し、先進国を含む国際社会全体の持続可能な開発目標(SDGs)として、2030年を期限とする17の目標と169のターゲットを定め、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と戦い、気候変動に対処するための取組みを進めています。

体験型教材「金融クエスト」の紹介

「金融クエスト」シリーズでは、経済や金融に関する内容を、グループワークなどを通じて体験的に学ぶことができます。5つの教材はそれぞれ分けて学ぶことができるようになっています。

①起業で社会的課題を解決しよう！
「投資・起業を学ぼう」

②チャレンジ大航海！
「間接金融と直接金融のしくみを学ぼう」

③レジャーランドの経営を立て直そう！
「株式会社のしくみを学ぼう」

④あなたの会社はどうなる？
「社会の変化と会社への影響を学ぼう」

⑤将来のために資金を運用しよう！
「資産形成と金融商品の特徴を学ぼう」

教授用手引書

2021年4月 発行
2023年3月 改訂
2024年8月 改訂

制作　金融経済教育推進機構
発行　株式会社 清水書院

発行者の許可なしに本テキストの内容の全部または一部を無断で複写、複製または転載することを固く禁じます。なお、これらの承諾については、金融経済教育推進機構まで、お問い合わせください。

FSC www.fsc.org
ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C126144